

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書

—令和3年度実績—



令和4年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象 「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	8
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	9
自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	13
いじめを許さない学校づくりの推進	14
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道德教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	15
健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	16
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供	17
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	20
国際理解のための学習や事業の推進	22
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	23
文化財の保存・活用と継承活動の推進	24
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	26
3 学識経験者の意見	27
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	28

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を選定しました。

○ 黒川 修行 氏

【現職】 宮城教育大学大学院教育学研究科 教授

【専門領域】 学校保健、教育保健学

【研究テーマ】 子どもの健康と体力・運動能力、健康教育

(3) 点検及び評価の対象

令和3年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会が実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

令和3年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、次代を担う子どもたちの創造性、主体性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 安全・安心な学校教育の推進
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの心身の健康と体力の向上

目指す『栗原っ子』像

- ・好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の振興
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

<p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するための35人を標準とする学級編制の実施 ② 個性を伸ばし、児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための補助教諭や補助員の配置 ③ 教育環境整備の推進 ④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑤ 幼児教育の充実と3年間の就園機会を図るための保護者の経済的負担の軽減 ⑥ 経済的理由により、就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助 ⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 通学における利便と安全確保を図るための遠距離通学の幼児、児童及び生徒への通学支援 ⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施 ⑩ 学校における「働き方改革」の推進
------------------------------	---

【子どもたちの確かな学力の育成】

<p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 市独自の研究指定校に勤務する教員を中心に、先進地（秋田県大仙市）に派遣する研修事業を軸とした、より効果的な学力向上対策の共有と推進 ② 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修等の推進 ③ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ④ 全国学力・学習状況調査、県学習意識調査、県英検I B A、市独自の標準学力テストの実施と結果分析による課題の把握に基づいた継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上 ⑤ 教科指導等におけるICTの効果的な活用を図るための研修会の実施 ⑥ ICT環境の充実による個別最適化された児童生徒一人一人の実態に応じた学習の推進 ⑦ 国際理解を深め、英語教育の充実を目指したALTの配置と教員対象の研修会の実施 ⑧ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上及び自主的学習の習慣化の推進 ⑨ 経済的な理由により修学することが困難な生徒や学生に対する奨学資金の貸与
---	--

【安全・安心な学校教育の推進】

自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 栗駒山麓ジオパーク等を活用した自らの命を守るための防災教育等の推進 ② 防犯を含む生活安全教育や交通安全教育の推進 ③ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化 ④ 通学路の安全の確保のための関係機関等との連携と適切な対策の推進 ⑤ 学校の防犯、防災及び安全管理体制の整備推進
------------------------------	--

【子どもたちの豊かな心の醸成】

いじめを許さない学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 「栗原市いじめ防止基本方針」や「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づく、教育相談等の取組の推進 ② いじめや不登校などの解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめ問題の重大事態の調査の実施やいじめ・不登校対策担当者等を中心としたいじめ防止対策体制の強化 ④ いじめの未然防止及び早期発見のためのQ-U調査等の結果の活用を図る研修会の実施 ⑤ 人間関係づくりや学級活動への意欲、学びや進路選択・実現の意欲に満ちた学級づくりの推進 ⑥ 命を大切にする教育の推進 ⑦ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探求する志教育の充実と推進 ② 幼稚園から小学校への円滑な接続を図る教育課程の編成と連携の推進 ③ 教育相談事業の実施とその対応策等の指導・助言の支援 ④ 不登校児童生徒の学校復帰を目指した子どもの心のケアハウス事業と適応指導教室の運営、登校支援ネットワーク事業の活用 ⑤ 支援を必要とする児童生徒への理解を深め、自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進と関係機関との連携を図る協議会の開催 ⑥ 特別支援コーディネーターのスキルアップと関係機関との連携の推進や校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 支援を必要とする児童生徒の保護者等との合意形成と児童生徒の立場に立った適切な就学指導の実施 ⑧ 発達障害や困り感のある児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関と連携し、生活や学習の困難を改善するための「個別の教育支援計画」及び「個別の教育指導計画」の作成・活用に向けた支援

【子どもたちの心身の健康と体力の向上】

健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 部活動方針に則った時間帯での活動によるバランスの取れた生活習慣の確立 ③ 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進 ④ 安全安心な学校給食の提供と食物アレルギー対策の実施 ⑤ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ⑥ 幼児、児童及び生徒並びに教職員の健診事業の継続実施 ⑦ 正しい知識に基づいた感染症防止対策の徹底
----------------------	--

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供	<p>【家庭教育の支援】</p> ① 子ども及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	<p>【青少年期の活動支援】</p> ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 青少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援
	<p>【成年期の活動支援】</p> ① 学習、交流活動の機会と活動の場の提供及び支援 ② 成人教育体制の整備を目標とする生涯学習団体及び指導者等の育成 ③ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の提供
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑦ 図書館及び図書室が連携したサービスの充実
国際理解のための学習や事業の推進	① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした文化芸術の振興】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 文化施設の設備充実と環境整備
--------------------------	--

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・活用と継承活動の推進	① 地域の文化財の調査、保存・活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実 ④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援
-------------------	---

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成・指導とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの育成と創設に関する支援 ⑤ 各種スポーツ大会における関係団体や学校との連携強化
------------------------	---

2 点検・評価の結果

点検及び評価項目一覧（令和3年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「幼稚園・学校のウェブサイトの適切な更新」	A
	子どもたちの確かな学力の育成	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	2 「教育研究センター事業」	A
			3 「学力向上対策プロジェクト事業」	B
			4 「学校ICT推進事業」（新規事業）	A
			5 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	B
			6 「地域と連携した防災訓練等の実施」	B
	安全・安心な学校教育の推進	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	7 「命を大切に作る教育」の実践	B
	子どもたちの豊かな心の醸成	いじめを許さない学校づくりの推進	8 「適応指導教室事業」「心のケアハウス事業」	C
			9 「全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進」	A
子どもたちの心身の健康と体力の向上	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実			
共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	10 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	C
			11 「少年体験教室事業」「合宿通学」「児童・生徒新春書初め会」「子ども陶芸教室」等	B
			12 「市民セミナー」（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）	B
		生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	13 「協働教育推進事業」	A
			14 「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」（図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会）	A
			15 「青空大使派遣事業」	—
地域の特色を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	地域に根ざした文化芸術の振興	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	16 「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」	A
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・活用と継承活動の推進	17 「文化財標柱等整備事業」	B
			18 「文化財普及啓発活動事業」	A
楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	心身の健康保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	19 「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」（高校陸上大会、東北中学校卓球大会、体力・運動能力調査ほか）	B

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造																				
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課																				
1 目的																								
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。																								
2 具体的事業																								
施策を構成する事業			目標指標																					
1「幼稚園・学校のウェブサイトの適切な更新」			幼稚園・学校のウェブサイトの更新回数																					
事業概要及び目標			現状値（令和2年度） 幼稚園 8.0/10.0回 達成率 80.0% 小学校 17.9/20.0回 達成率 89.5% 中学校 20.6/25.0回 達成率 82.4% 目標値（令和3年度） 幼稚園 12.0/10.0回 達成率 120.0% 小学校 34.3/20.0回 達成率 171.5% 中学校 19.2/25.0回 達成率 76.8% ※金成小中学校は小学校に含む																					
開かれた幼稚園・学校を目指し、幼稚園・学校だより等を定期的に発行するとともに、ウェブサイトでの情報発信を適切に行う。ウェブサイトの内容として、幼稚園・学校だよりのほか、行事等を掲載し、広く住民に学校活動の周知を図る。																								
3 令和3年度の取組と自己評価																								
取組と成果																								
幼稚園については、学校教育課で作業を行い、計画的に更新することができた。小・中学校では、新型コロナウイルスの影響により学校行事が計画のとおり実施できず、予定していた更新ができなかったこともあり、目標に達することができない学校もあった。																								
<p>【達成状況】 (単位：園、校、回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>園・校数</th> <th>達成園・校数</th> <th>平均更新回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>12.0</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>34.3</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>19.2</td> </tr> <tr> <td>計(平均)</td> <td>27</td> <td>16</td> <td>21.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※義務教育学校(金成小中学校)は、小学校に含む</p>						園・校数	達成園・校数	平均更新回数	幼稚園	9	9	12.0	小学校	12	6	34.3	中学校	6	1	19.2	計(平均)	27	16	21.8
	園・校数	達成園・校数	平均更新回数																					
幼稚園	9	9	12.0																					
小学校	12	6	34.3																					
中学校	6	1	19.2																					
計(平均)	27	16	21.8																					
評価																								
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上) B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満) C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満) D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)																							
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																								
目標達成に向け、計画的に更新を行うとともに、ウェブサイト以外の情報発信も検討する。			➡	更新目標が達成できなかった小・中学校に目標の達成を促すとともに、ウェブサイト以外のSNSを活用した情報の発信も実施する。																				
5 学識経験者の意見																								
各学校の使用しているWebサイトのURLが様々あり、「栗原市立」であることが分かりにくい状況にあります。市でサーバを統一するなど検討しても良いかと思われます。また、SNSの活用が示されていましたが、Webサイトをスマホ・タブレットでも見るようにする方法もご検討ください。																								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成								
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課								
1 目的												
幼児・児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。												
2 具体的事業												
施策を構成する事業		目標指標										
2「教育研究センター事業」		研修受講者の満足度 (「大変参考になった」と「参考になった」の合計)										
事業概要及び目標		<table border="0"> <tr> <td>現状値 (令和2年度)</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>目標値 (令和3年度)</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値 (令和3年度)</td> <td>98.9%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>99.8%</td> </tr> </table>			現状値 (令和2年度)	99.7%	目標値 (令和3年度)	99.0%	実績値 (令和3年度)	98.9%	達成率	99.8%
現状値 (令和2年度)	99.7%											
目標値 (令和3年度)	99.0%											
実績値 (令和3年度)	98.9%											
達成率	99.8%											
<p>交流・研修事業、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、「学府くりはら」の着実な実現を図るため、センターで実施する研修内容の充実を図り受講者全員に満足してもらえる研修会を目指す。特に、個別最適な学び・協働的な学びの推進に向けICT機器を活用した授業力向上と国際感覚豊かな人材の育成のための外国語教育を指導する教職員の授業力向上及び次代を担う幼稚園中堅教員の園経営力向上を図る研修を充実させる。</p>												
3 令和3年度の取組と自己評価												
取組と成果												
<p>今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため研修会を一部中止または、延期した。市内教職員の学びを止めないようオンラインや参加人数の縮小などを実施しながら、事業の実施に努めた。特に今年度は新学習指導要領に対応した研修として、算数・数学科及び外国語教育の研修会を実施するとともに、GIGAスクール構想に伴う一人一台端末を活用した授業づくりのための研修を実施した。</p> <p>○「算数・数学授業づくり研修会」(満足度100%) 「授業プランシート」を活用した授業づくりを実施した。グループごとにプランシートの作成と作成したシートを基にした授業を実践し、主体的な研修を行うことで満足度も高いものとすることができた。</p> <p>○「外国語教育研修会(小・中学校別)」(満足度100%) これまで行ってきた外国語教育研修会をさらに授業づくりに特化した形に改善して実施した。校種ごとに情報交換をしながら、これから求められる外国語教育についてより深く考えることができたため満足度も高いものとなった。</p> <p>○「ICT出前研修会」の実施(満足度97.4%) 市内の学校14校において出前研修会を実施した。4月に配置されたタブレット端末を効果的に活用するための在り方について校種を問わず考えることができた。 授業の中でどのようにタブレット端末を活用していくべきか、導入初期の段階ということもあり参加者の課題を解決するまでには至らなかったため今後もさらに研修を行うことが必要である。</p> <p>ICT出前研修会において、満足度が96%台となったことで、研修全体の満足度が例年よりも約1%低下した。研修参加者の課題解決につながる研修会となるよう今後改善していくことが必要である。併せて、研修内容の活用とその効果について、次年度実施される授業づくり研修会等で検証していく。</p>												
評 価												
A	A	良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)										
	B	概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)										
	C	やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)										
	D	課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)										
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針												
<p>授業づくりに対する主体性が課題としてあげられる。そのため、参加者が作り上げる研修会へのさらなる転換を図っていく。また、ICTなどの喫緊の課題へ対応する研修会を設定していく。</p>		➡	<p>研修の内容、実施方法を含め参加自身が考える主体的な研修会を実施する。</p> <p>①算数・数学授業づくり研修会と教育先進地派遣研修の連携 ②小・中学校外国語教育研修会 ③ICT活用授業づくり研修会(小・中学校別)</p>									
5 学識経験者の意見												
<p>研修者の満足度の高いところは特筆する点であると考えられました。引き続き、GIGAスクール構想などを念頭においたICT活用の研修会の展開をご検討ください。参加者自身の主体的な研修会の企画も期待できますが、個人間で目指すところが異なっている可能性もありますので、その点をセンターが主となり、運営していただく和良好的ではないでしょうか。</p>												

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

3 「学力向上対策プロジェクト事業」

事業概要及び目標

栗原市独自の学力向上研究指定校事業に基づく研究指定校により、学校における質の高い学びの実現を目指す実践研究を推進する。特に、小中連携や探求型の学習をさらに推進するとともにICT機器を効果的に活用した学習を積極的に取り入れ、その成果と課題の共有を図ることにより児童生徒の学力向上を目指す。	目標指標			
	「全国学力・学習状況調査」の全国平均正答率との差			
	現状値 (R元年度)	目標値 (R3年度)	実績値 (R3年度)	達成率 (R3年度)
小学校				
国語	▲5.0	0.0	▲5.0	92.3%
算数	▲5.0	0.0	▲7.0	90.0%
中学校				
国語	▲2.0	0.0	▲5.0	92.3%
数学	▲8.0	0.0	▲8.0	86.0%

※達成率は全国平均を100%とした時の栗原市平均の割合

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果

今年度は「学力向上研究指定校事業」と「学力向上研究推進協議会」の2つを中心に実施した。
1つ目の「学力向上研究指定校事業」については、平成29年度より市内全ての小中学校を2カ年ずつ3つのグループに分けて指定しており、令和3年度からの2年間は、築館中学校区と栗原南中学校区の小中学校6校を指定した。10月に築館中学校区、12月に栗原南中学校区の学校が1年目の中間公開研究会を行い、タブレット端末を活用した探究型の授業や、小中学校9年間を見通した中学校区での取組等について発表した。
2つ目の「学力向上研究推進協議会」については、全ての学校の研究主任及び指定校の校長で構成しており、今年度は4回実施した。会議の中で指定校の研究発表や学力向上に係る取組についての情報交換等を行った。それぞれの成果と課題が共有され、各校の授業作りに生かされた。
目標としている全国学力・学習状況調査の結果では、目標値を達成できなかった。学力向上の要である授業づくりと併せ、業前活動や家庭学習等、授業以外の場面での学力向上策を講じていく必要がある。

単位：点

	R3年度			R元年度				
	全国	宮城県	栗原市	全国	宮城県	栗原市		
小学校	国語	65	63	60	国語	64	62	59
	算数	70	68	63	算数	67	65	62
中学校	国語	65	65	60	国語	73	74	71
	数学	57	55	49	数学	60	58	52

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

授業づくりについては、研究が深まってきたが、授業以外の場面での取組について中学校区で共有する機会が少なかつたため、取組に差があった。  学校間の連携をさらに深め、授業の質を高めるとともに、授業以外の場面での学力向上の取組や、家庭学習への支援についても深めていく。

5 学識経験者の意見

全国調査との比較において、平均正答率との比較が行われていますが、できれば正答率の分布も確認して、全体としてどのような正答率にあるのか分析する必要があります。分布を踏まえて、全員に同じようなアプローチをすることに加えて、個人毎の、すなわち個別最適化を視野にいれた取り組みが必要であろうと考えられました。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																				
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																				
1 目的																								
整備されたICT機器を効果的に活用し、学習活動の一層の充実と主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通じ、児童生徒が継続的に学び続けようとする意欲や豊かな創造性、多様な人々と協働しながら課題を解決するなどの力を育む。																								
2 具体的事業																								
施策を構成する事業		目標指標																						
4「学校ICT推進事業」(新規事業)		週あたりのICT機器を活用した授業の割合 (小学6年生・中学3年生) (ほぼ毎日・1日1回以上使用)																						
事業概要及び目標																								
ICT活用モデル校を中心に一人一台端末の環境を有効に活用した授業改善を推進し、主体的に学び続けようとする意欲や豊かな創造性などの学力向上に向け、ICT機器を積極的に活用する。		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R3年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学6年</td> <td>—</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>中学3年</td> <td>—</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>				現状値	目標値	実績値	達成率		R2年度	R3年度	R3年度	R3年度	小学6年	—	100.0%	100.0%	100.0%	中学3年	—	100.0%	100.0%	100.0%
	現状値	目標値	実績値	達成率																				
	R2年度	R3年度	R3年度	R3年度																				
小学6年	—	100.0%	100.0%	100.0%																				
中学3年	—	100.0%	100.0%	100.0%																				
3 令和3年度の取組と自己評価																								
取組と成果																								
<p>ICT活用モデル校として、築館中学校区の3校(築館小学校、宮野小学校、築館中学校)を指定し、各校がタブレット端末を活用した授業づくり等に取り組んだ。モデル校が協働して従来の探究型学習スタイルにICT活用場面を取り入れた学習過程を作成し、公開研究会を通して市内各校に提案を行った。</p> <p>また、ICT活用モデル校以外の学校においても、情報教育推進リーダーを中心に、積極的にタブレット端末を活用した授業づくりが進められた。</p> <p>指標としている「週あたりのICT機器を活用した授業の割合」については、ほぼ毎日(1日1回以上)が、小学校6年生、中学校3年生ともに100パーセントだった。</p>																								
評価																								
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)</p> <p>C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)</p> <p>D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)</p>																							
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																								
ICTの活用回数を増やすだけでなく、より効果的な活用の仕方について検討し、活用の質を高めていく必要がある。		➡	公開研究会や授業公開等の機会に、各校のICT活用の取組について協議を行い、学習のねらいに即したより効果的な活用について検討する。																					
5 学識経験者の意見																								
新規事業とのことで、今後の展開が期待される事業でした。ICTの活用は、既に求められている内容ですので、モデル校と位置付けず、市内全校で積極的な活用が必要と考えられました。今後は、各校間の連携、また教育研究センターをICT活用能力育成センター的な形での動きも期待されるところです。																								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課
1 目的				
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業		目標指標		
5「国際田園都市づくり英語教育導入事業」 「語学指導外国青年招致事業」		中学2年生の英語能力測定テスト（I B A）の実用英語技能検定4級相当以上の割合		
事業概要及び目標		現状値(令和2年度) 42.0% (191人/455人) 目標値(令和3年度) 50.0% 実績値(令和3年度) 38.3% (174人/454人) 達成率(令和3年度) 76.6%		
AL Tを活用した指導の工夫と実践の累積により、外国語に興味関心を持たせる。また、J E Tプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。				
3 令和3年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>小学校（義務教育学校前期課程含む）に民間へ業務委託しているAL T（ノンJ E T）を4人、中学校（義務教育学校後期課程含む）に国の外国青年招致事業のAL T（J E T）を7人配置した。新型コロナウイルスの影響により、一部の中学校については配置が遅れてしまったが、11月には全ての学校にAL Tを配置することができた。</p> <p>中学校2年生について、「英語能力測定テスト」で4級以上に合格する生徒の割合を指標としており、令和3年度は目標値を達成できなかった。しかし、令和2年度と比較すると「リスニング」の平均正答率については2.6%向上しており、AL Tを活用した指導の成果と考えられる。</p>				
AL T配置状況				
	小学校・義務教育学校(前期課程)		中学校・義務教育学校(後期課程)	
	校数	学校名	校数	学校名
J E T	1校	志波姫小	7校	築館中、若柳中、栗駒中、栗原南中、栗原西中、志波姫中、金成小中（後期）
ノンJ E T	11校	築館小、宮野小、若柳小、栗駒小、栗駒南小、高清水小、一迫小、瀬峰小、鶯沢小、花山小、金成小中（前期）	-	-
評 価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針				
担任や英語担当教員とAL Tとの連携を深め、さらに授業の質を高めていく必要がある。		➡	AL Tの勤務時間の中で、打合せの時間を確保し、授業のねらいや役割分担等についてしっかりと共通理解して授業を行えるようにする。	
5 学識経験者の意見				
英語として考えるのか、英会話として考えるのか、あるいは外国文化を学ぶために英語を道具とするのか、によっても、事業展開が異なってくるものと考えられます。いずれにしても、これらの事業の中だけではなく、様々なレベル/活動で外国語に触れ、使うことが必要であり、どのように機会を確保していくのかにも注意が必要と考えられました。				

施策体系	基本方針	一人一人を生きかし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進															
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進		担当課 学校教育課															
1 目的																			
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校を目指し、幼児・児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。																			
2 具体的事業																			
施策を構成する事業		目標指標																	
6「地域と連携した防災訓練等の実施」		学校と地域の防災に関する意見交換を行う機会の設定																	
事業概要及び目標		現状値(令和2年度)	92.9%	(26/28校)															
地域と連携した防災訓練の必要性について、幼稚園・学校に働きかけ、自分の命は自分で守る教育を推進する。また、幼稚園・学校における危機管理意識を向上し、幼児・児童生徒の命を守るための防災体制づくりを支援するため、防災マニュアルの改善を働きかける。		目標値(令和3年度)	100.0%																
		実績値(令和3年度)	88.9%	(24/27校)															
		達成率(令和3年度)	88.9%																
3 令和3年度の取組と自己評価																			
取組と成果																			
<p>「防災に関する地域との意見交換」については、多くの幼稚園・学校がPTA役員会や学校評議員会等の機会に行っている。ただ、今年度は新型コロナウイルスの拡大防止のため、それらの会議を見合わせた幼稚園・学校もあった。</p> <p>防災マニュアルを含めた「危機管理マニュアルの改善」については、各園・各校で11月に発生した「登米市豊里こども園」への不審者侵入事件を受け、改めてマニュアルの再確認と見直しを行った。また、すべての幼稚園と小学校で不審者対応訓練を行うとともに、不審者対応に係る設備や用具の整備状況を確認し、必要に応じて追加配備を行った。</p>																			
地域との意見交換の実施																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%;">実施校(園)数</th> <th style="width: 35%;">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>8/9園</td> <td>88.9%</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>10/11校</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6/7校</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>24/27校(園)</td> <td>88.9%</td> </tr> </tbody> </table>						実施校(園)数	割合	幼稚園	8/9園	88.9%	小学校	10/11校	90.9%	中学校	6/7校	85.7%	計	24/27校(園)	88.9%
	実施校(園)数	割合																	
幼稚園	8/9園	88.9%																	
小学校	10/11校	90.9%																	
中学校	6/7校	85.7%																	
計	24/27校(園)	88.9%																	
評価																			
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)																		
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)																		
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)																		
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)																		
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																			
新型コロナウイルスの影響により、地域との意見交換ができなかった幼稚園、学校があった。		➡	今後も、新型コロナウイルスの影響が考えられる。地域との意見交換については、参集せず書面等で実施する方法も検討する。																
5 学識経験者の意見																			
新型コロナウイルス感染症により課題の取り組みが進展できなかったように思われますが、このタイミングでは、より災害時の対策を考える必要があると思います。これまでの生活とは全く異なった環境下では、自然災害の発生した際の対応も異なるはずです。どのような場合でも、何らかの形で地域と連携した防災訓練等を実施することが望ましいと思われました。																			

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成																								
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課																								
1 目的																												
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。																												
2 具体的事業																												
施策を構成する事業			目標指標																									
7「命を大切にできる教育」の実践			全国学力・学習状況調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する児童生徒の割合																									
事業概要及び目標																												
いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、命を大切に、自己肯定感を持てるような授業づくりを推進する。また、確実な実施に向けた授業支援と学校評価項目への位置付けにより、進捗状況の管理に努め、命を大切にできる児童生徒の育成を目指す。			<table border="1"> <tr> <td>現状値（令和元年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>98.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>96.1%</td> </tr> <tr> <td>目標値（令和3年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値（令和3年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>達成率（令和3年度）</td> <td>小学6年生</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学3年生</td> <td>95.8%</td> </tr> </table>		現状値（令和元年度）	小学6年生	98.0%		中学3年生	96.1%	目標値（令和3年度）	小学6年生	100.0%		中学3年生	100.0%	実績値（令和3年度）	小学6年生	96.2%		中学3年生	95.8%	達成率（令和3年度）	小学6年生	96.2%		中学3年生	95.8%
現状値（令和元年度）	小学6年生	98.0%																										
	中学3年生	96.1%																										
目標値（令和3年度）	小学6年生	100.0%																										
	中学3年生	100.0%																										
実績値（令和3年度）	小学6年生	96.2%																										
	中学3年生	95.8%																										
達成率（令和3年度）	小学6年生	96.2%																										
	中学3年生	95.8%																										
3 令和3年度の取組と自己評価																												
取組と成果																												
<p>「命を大切にできる教育」を生徒指導面のみならず、防災教育や福祉教育、新型コロナウイルス感染症における保健指導等の様々な教育活動の中で、意図的、計画的に指導していくことを各学校の教育計画へ位置付けることとした。</p> <p>各学校では、一昨年度末の新型コロナウイルス感染症による臨時休業以降、これまで以上に一人一人に寄り添って生徒指導や教育相談等に取り組んだ。その結果、温かい雰囲気の中で学級づくりや学年づくりが行われ、落ち着いた学校活動を実践することができた。</p>																												
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか。（小学生）			いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか。（中学生）																									
	宮城県	栗原市		宮城県	栗原市																							
あてはまる。	83.5%	84.0%	あてはまる。	81.0%	85.4%																							
どちらかと言えば、あてはまる。	12.8%	12.2%	どちらかと言えば、あてはまる。	15.1%	10.4%																							
どちらかと言えば、あてはまらない。	2.6%	2.9%	どちらかと言えば、あてはまらない。	2.8%	2.2%																							
あてはまらない	1.1%	0.7%	あてはまらない	1.1%	1.8%																							
その他、無回答	0.0%	0.2%	その他、無回答	0.0%	0.2%																							
評価																												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																											
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																											
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																											
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																												
<p>全国学力・学習状況調査の結果と活用については、学力調査結果のみならず質問紙調査についてもその結果を生かした授業づくりや集団づくりを行っていくよう、研修会で指導していく必要がある。</p>			<p>栗原市教育研究センターで行うQ-U活用研修会等の各種研修会をとおして、誰もが居心地の良い学級づくりを推進し、いじめを許さない子どもたちに育てていく。</p>																									
5 学識経験者の意見																												
<p>非常に高い実施率であることを確認できました。昨今、様々な形でのいじめが発生しており、命を失っていることが報道されます。我々はそのような事を聞いて、何をしなければいけないか、考えることとなります。コロナ禍だからこそ、改めて気づかされたこともあります。様々な形で展開されているようですが、学校、すなわち子どものみならず、大人においても実践研修する機会があると良いのではないのでしょうか。引き続き丁寧に取り組んでいただけることを期待します。</p>																												

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成
	具体的施策	一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	担当課	学校教育課

1 目的

一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進を図る。

また、豊かな心と主体的・自立的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指し、児童生徒に教育的ニーズに応じた支援を実施する。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
8「 適応指導教室事業 」 「 心のケアハウス事業 」	不登校児童生徒の「心のケアハウス」や「適応指導教室」等の活用割合
事業概要及び目標	
学校生活への適応指導の充実を図るため適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員2人を配置する。また、子どもの心のケアハウス事業を実施し、心のケアスーパーバイザー（1人）、学習サポーター（2人）、訪問指導員を（1人）を配置し、学校不適応傾向の児童生徒へ心の居場所づくりや学習の場を保障し、登校に向けての支援を行う。	現状値（令和2年度） 20.9%（14人/67人） 目標値（令和3年度） 30.0% 実績値（令和3年度） 15.3%（15人/98人） 達成率（令和3年度） 51.0%

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果

心のケアハウス及びけやき教室、関係機関がスムーズな連携を図れるよう学校教育支援室を整備し、不登校及び別室登校等の不登校傾向の児童生徒の実態に応じた支援に取り組んだ。

けやき教室には不登校児童生徒98人（児童15人、生徒83人）のうち、4人の生徒及び不登校児童生徒以外の生徒1人の通所があり、生徒の実態に応じて学習支援や心の居場所づくりを行い自立支援を図った。その結果、教室復帰できるようになった生徒が1人、部分登校（夕方の登校）ができるようになった生徒が2人等、生徒の変容が見られるようになった。また、けやき教室に通所した中学3年生の3人全員が、希望する公立高校への進学を果たすことができた。

心のケアハウスでは、早期に不登校及び別室登校等の対応に応じるため、学校からの要請に応じて学習サポーターを派遣し、児童2人、生徒7人の別室での学びサポートを行った。また、不登校児童生徒等を対象としたケース会議を実施し、スクールソーシャルワーカー（SSW）が中心となって話し合いを進め、関係機関と連携したことにより、生徒が前向きに登校できるようになったり保護者が学校に対して協力的な姿勢を持てるようになったりした。

なお、けやき教室及び心のケアハウスを活用した児童生徒29人中14人は、継続的に別室登校等ができるようになるなど、不登校の未然防止として十分な効果が発揮された。

注）不登校児童生徒とは、年間30日以上欠席した児童生徒（病気欠席等は含まない）

不登校児童生徒（欠席日数30日以上）					不登校児童生徒以外				
事業名	区分	小学生	中学生	合計	事業名	区分	小学生	中学生	合計
けやき教室	正式通所者	0人	4人	4人	けやき教室	正式通所者	0人	1人	1人
心のケアハウス	学びサポート	0人	5人	5人	心のケアハウス	学びサポート	2人	2人	4人
	SSW活用者	1人	5人	6人		SSW活用者	9人	0人	9人
	計	1人	10人	11人		計	11人	2人	13人

※SSWを活用し、学びサポートを受けている中学生2名は、学びサポートの人数に計上

評価

C

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

学校教育支援室と関係機関との連携をよりスムーズにしていくとともに、学校に、活用についての情報提供を積極的に行っていく必要がある。



学校教育支援室の各担当の連携及び関係機関との連携を図り、児童生徒の実態に応じた対応を迅速に行うとともに、学校教育支援室から学校への情報提供を積極的に行っていく。

5 学識経験者の意見

達成率が低いものの、行政サービスとして重要度の高い事業ではないかと考えられます。画一化された支援ではなく、それぞれの特性に合わせた対応が必要となっており、活用割合が高くなっても、必要な事業であると考えます。評価としては、活用割合だけでなく、このような施設があることや活用例などが市民に知られているか、といった認知度も考慮する必要がある事業と考えられました。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの心身の健康と体力の向上
	具体的施策	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的

健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

9「全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進」

児童生徒の体力・運動能力調査における合計点の全国平均との差

事業概要及び目標

すべての学校で実施している「全国体力・運動能力調査」の結果を分析する。その結果から、各校の努力事項を明確にし、課題解決に向け、特定の種目に特化した取組を実施することにより、体力向上が図れるよう働きかける。

	現状値 (R元年度)	目標値 (R3年度)	実績値 (R3年度)	達成率 (R3年度)
小学校				
5年(男)	▲1.8	0.0	0.5	100.9%
5年(女)	0.6	0.0	0.3	100.6%
中学校				
2年(男)	▲0.8	0.0	0.2	100.5%
2年(女)	▲0.4	0.0	0.4	100.8%

※達成率は全国平均を100%とした時の栗原市平均の割合

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による保健体育の授業や中学校の部活動、スポーツ少年団活動の制限により、大幅な体力低下が懸念されたが、全国体力・運動能力テストが実施された一昨年度の記録と比較して、やや記録が低下した種目があるものの市内の児童生徒の顕著な記録低下は見受けられなかった。

各学校では、保健体育科の授業において、ソーシャルディスタンスを意識した運動を積極的に導入するとともに、各種運動に応じた学習カードを活用し、目標を持たせて活動に取り組みさせるなど、体力の向上に努めた。

また、休憩時間には、マラソンカードや縄跳びカードを活用して、積極的に運動に取り組みさせたり、グラウンドにラインを引いて興味を持たせるような場の設定を行ったりしたことによって、児童生徒が運動に親しみやすいような工夫を行ったことが全国平均を上回る結果につながったと考える。

【体力合計点（点）】

		R3年度		R元年度	
		全国	栗原市	全国	栗原市
小学5年	男子	52.52	53.01	男子	53.61
	女子	54.64	54.98	女子	55.59
中学2年	男子	41.18	41.37	男子	41.69
	女子	48.56	48.97	女子	50.22

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

全国体力・運動能力テストの結果を分析し、課題がある種目について、体力向上に実績がある学校の取組を紹介し、さらなる向上を目指して取り組ませる必要がある。



全国体力・運動能力テストの結果を各校で分析し、課題がある種目について改善していけるよう、体力向上に実績がある学校の取組を積極的に紹介する。

5 学識経験者の意見

学力の課題とともに、体力の課題も多くの地域で抱えております。栗原市では、平均点で全国値を上回っていることは良好な点です。しかしながら、平均点に対して0.5点であり、これがどの程度の意味を持っているのか、見直す必要があると考えます。総合点のみならず、種目毎あるいは普段の生活との関連なども検討しながら、対策を構築すると良いのではないのでしょうか。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																								
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課																								
1 目的																												
青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。																												
2 具体的事業																												
施策を構成する事業		目標指標																										
10「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」		ジュニア・リーダーに関する事業開催数																										
事業概要及び目標		現状値（令和2年度） 5事業 目標値（令和3年度） 7事業 実績値（令和3年度） 4事業 ※ 目標値を7事業と設定し、8事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4事業を中止とした。 達成率 57.1%																										
ジュニア・リーダーとして必要な知識や技術を習得するため、初級講習会の開催、技術研修会への参加を促し、ジュニア・リーダーの育成に努める。また、地域で開催される子ども会活動、社会教育事業等にジュニア・リーダーの積極的な参画を促し、ジュニア・リーダー活動の活性化を図る。																												
3 令和3年度の取組と自己評価																												
取組と成果																												
<p>ジュニア・リーダーの継続的な育成と活動の活性化を図るため、児童を対象とした事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4事業が中止となった。</p> <p>その中で開催した「栗原市ジュニア・リーダー技術研修会」では、ジュニア・リーダー活動についての学びや、遊び、創作活動などの実技を市内のジュニア・リーダーと交流しながら行うことができた。</p> <p>また、ジュニア・リーダー加入について学校への呼びかけ等を行い、新たに6人がジュニア・リーダーに加入し、令和2年度と比較して2人増となった。</p>																												
令和3年度 ジュニア・リーダー関連事業（4事業）																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>参加人数</th> <th>うちJ・L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栗原市ジュニア・リーダー技術研修会</td> <td>8月1日（日）、10月24日（日）</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>ジュニア・リーダー初級研修会</td> <td>11月28日（土）、12月11日（土）、12日（日）</td> <td>90人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>宮城県市町村ジュニア・リーダー（中学生）技術研修会</td> <td>10月30日（土）</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>せみね・たかしみずふれあいクリスマスパーティー</td> <td>12月12日（日）</td> <td>53人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>168人</td> <td>47人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	参加人数	うちJ・L	栗原市ジュニア・リーダー技術研修会	8月1日（日）、10月24日（日）	21人	21人	ジュニア・リーダー初級研修会	11月28日（土）、12月11日（土）、12日（日）	90人	16人	宮城県市町村ジュニア・リーダー（中学生）技術研修会	10月30日（土）	4人	4人	せみね・たかしみずふれあいクリスマスパーティー	12月12日（日）	53人	6人	合計		168人	47人
事業名	開催日	参加人数	うちJ・L																									
栗原市ジュニア・リーダー技術研修会	8月1日（日）、10月24日（日）	21人	21人																									
ジュニア・リーダー初級研修会	11月28日（土）、12月11日（土）、12日（日）	90人	16人																									
宮城県市町村ジュニア・リーダー（中学生）技術研修会	10月30日（土）	4人	4人																									
せみね・たかしみずふれあいクリスマスパーティー	12月12日（日）	53人	6人																									
合計		168人	47人																									
ジュニア・リーダー数 令和3年度 27人（内新規加入6人） 令和2年度 25人																												
（中止した事業）																												
ジュニア・リーダーフェスティバル、築館ジュニアリーダー人形劇まつり、くりこまハロウィンパーティー、かなりクリスマス子ども祭り																												
評価																												
C	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																											
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																											
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																											
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																											
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																												
<p>ジュニア・リーダーの登録人数は、2年度より増となったものの、長期的にみると減少傾向にある。特にジュニアリーダー不在の地区では認知度が低いことから、ジュニア・リーダーの活動の周知と募集活動が必要である。</p> <p>また、コロナ禍においてもオンラインによるイベント等の開催についても実施に向けて検討が必要である。</p>		<p>➡</p> <p>青少年育成団体と協力してジュニア・リーダーが活動できる事業を実施し、ジュニア・リーダー活動を紹介するとともに、ジュニア・リーダーの新規加入につながる啓発活動を行う。</p> <p>オンラインで可能な事業の検討及び実施に向けて体制整備等を行う。</p>																										
5 学識経験者の意見																												
<p>ジュニア・リーダーの登録人数が長期的には減少していることは危惧されました。恐らく、登録することの意義が見出せていないのかも知れません。ジュニア・リーダーになることで、どのような意味があるのか、また児童にとっての利点が明確になれば、登録増に向かうことも考えられます。活動内容をより明確にすること（ホームページが4年くらい更新されていません）も必要であると考えられました。</p>																												

実施体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供	担当課 社会教育課	

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
11「少年体験教室事業」「合宿通学」「児童・生徒新春書初め会」「子ども陶芸教室」等	事業参加者の満足度 現状値（令和2年度） 90.0% 目標値（令和3年度） 95.0% 実績値（令和3年度） 92.5%
事業概要及び目標	達成率 97.4%
青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験活動及び交流事業の実施や、青少年育成団体との共催による事業を実施する。	

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果

この事業は、様々な遊びや体験活動、人との関わりを通して豊かな心を育むことも目的として実施しており、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら実施することができた。しかしながら、感染拡大により中止としなければならない事業もあった。実施した事業については、参加者から「楽しかった」「大変良かった」などの感想を得ている。

令和3年度 事業実施状況

事業名	期日・期間	対象	参加人数
少年体験教室事業「まなびっ子」	R3.7.22(木)	築館・志波姫地区小学生	16人
親子消しゴムはんこ講座	8月・11月・12月	栗駒・鶯沢地区小学生・保護者	23人
子ども陶芸教室	5月～8月	栗駒・鶯沢地区小学生・保護者	30人
神楽教室	4月～2月	市内一般・子ども	87人
一迫・花山管内児童・生徒新春書初め会	1月	一迫・花山地区小・中学生	17人
おはなし会	毎週土曜日	幼児、小学生	233人
七夕おはなし会	R3.7.3(土)	幼児、小中学生	21人
子どもの本展示会	R3.7.24(土)～R3.8.1(日)	幼児、小中学生、一般	76人
ブックラリー	R3.9.1(水)～R4.3.31(木)	幼児、小中学生、高校生	197人
手づくり絵本教室	R3.12.5(日)	幼児、小中学生、一般	10人
冬のあったかおはなし会	R3.12.18(土)	幼児、小中学生	14人
計			724人

(中止した事業)

あきる野市・栗原市友好親善交流事業、くりはらっこ わんぱく塾、夏休み子ども映画会

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

昨年と同様に新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの事業実施が必要である。



3密の回避、マスク着用、手指消毒といった感染防止対策を徹底し、広い会場又は屋外での開催、また、オンラインでの開催など、実施できる内容の事業にする。

5 学識経験者の意見

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながら、実施する機会を作ったことは素晴らしいことと考えられました。子供達にも、適切な対応を取って実施すれば、大丈夫であることが伝わったのではないかと考えられます。幼児も対象になっていることから、地域における学年を越えた子供達の繋がりを作る機会にもなっているのではないかと考えられます。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興		
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課		
1 目的						
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。						
2 具体的事業						
施策を構成する事業			目標指標			
12「市民セミナー」（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）			事業参加者の満足度			
事業概要及び目標			現状値（令和2年度） 96.9%			
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場を提供するとともに、参加の状況に合わせてサークル活動に移行できるように支援する。また、高齢者の豊かな知識と経験を生かすため、積極的に高齢者の社会参加を進める。			目標値（令和3年度） 98.0%			
			実績値（令和3年度） 87.7%			
			達成率 89.5%			
3 令和3年度の取組と自己評価						
取組と成果						
市民セミナーは、各教育センターで行うライフステージに合わせた事業である。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施回数や人数を制限するなどの対策を講じてセミナーを実施した。事業内容については、新たにスマホ教室を実施し概ね好評であったものの、一部の方からは「もっとわかりやすく進めて欲しい」などの意見もあり、全体での満足度は目標値を達成することができなかった。						
(令和3年度)						
事業の種類		事業名		延べ参加人数		
シニアセミナー (60歳以上)		アクティブカレッジ、志波姫松葉大学、瀬峰・高清水リフレッシュカレッジ、寿康大学		191人		
レディースカレッジ		女性教室		136人		
市民セミナー		料理教室、きっこまざぎ教室、スマホ教室、園芸講座、手芸講座		195人		
合 計				522人		
評 価						
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）					
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）					
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）					
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）					
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針						
各セミナーについては、新型コロナウイルス感染防止の観点から人数を制限しての事業実施となった。また、実施する地域に偏りがある。			➡	昨年に引き続き感染防止対策を徹底しての事業実施を行うとともに、オンラインでの事業実施を進める。また、オンライン開催により他地区の事業にも参加できる環境づくりを推進する。		
5 学識経験者の意見						
高齢化社会を迎える中で、「繋がり」の重要性が指摘されていることから、セミナー開催は大切な機会であると考えられました。参加者も比較的多いのではないかとありますが、延べ人数で示されていることから、参加者数のカウント重複があると考えられます。これまで参加出来ていない方に参加してもらえるような具体的方策を検討する必要があると示唆されました。						

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育む。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
13「協働教育推進事業」	協働教育各種推進事業への参加人数
事業概要及び目標	現状値（令和2年度） 1,615人 目標値（令和3年度） 2,000人 実績値（令和3年度） 2,729人 達成率 136.5%
地域住民がボランティアとして子どもたちの学習及び体験活動等を支援する学校支援活動や地域活動などを実施し、家庭・地域・学校が連携、協働して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。また、今年度からの新事業「くりはら未来塾」を円滑に実施する。	

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果
協働教育の意義と重要性の理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育事業を実施した。学校支援活動は、すべての小中学校で実施することができた。放課後子ども教室は、1校において実施した。また、令和3年度より「くりはら未来塾」を開催し、夏休み学習会では、162名の参加があり、「プリントはむずかしいものもあったけど全部とけてとてもうれしかった」「学年のたんとこの先生にきいて問題をとくことができ楽しかったです」との感想を得ている。

令和3年度協働教育事業実施状況

事業名	期日	対象	事業内容	参加人数合計
家庭教育学級	随時	高清水小(97)、築館小(173)、築館北保育所(51)、花山小(8)	家庭教育、食育 など	329人
家庭教育サポーター研修会 くりはら未来塾 (放課後学習会)	5/17 通年	家庭教育支援チーム員、家庭教育支援団体ほか 築館小、宮野小、若柳小、一迫小、瀬峰小、鶯沢小、金成小、志波姫小、花山小(9校)	演習、体験活動 放課後において学び支援員を派遣し、学習支援を行う。	6人
くりはら未来塾 (夏休み学習会)	通年	市内小学校及び義務教育学校に在籍する小3～6年生(144) 市内中学校及び義務教育学校に在籍する1、2年生(7、8年生)(18)	長期休業中の学習会の実施。 学び支援員として県内の大学生に依頼。	162人
学校支援活動 (推進指定校)	通年	築館小(127)、瀬峰小(57)、鶯沢小(15) 栗原南中(20)、志波姫中(26)	農業体験、読み聞かせ、藍染指導、MAPIによる活動、登校安全指導 など	245人
学校支援活動 (推進指定校以外)	通年	宮野小(193)、若柳小(94)、栗駒小(48)、栗駒南小(270)、高清水小(78)、一迫小(6)、志波姫小(142)、花山小(135)、築館中(292)、若柳中(154)、栗駒中(62)、栗原西中(247)、金成小中(146)	環境美化作業、読み聞かせ、運動会リズムダンス指導、育苗見学、交通安全教室、部活動指導、ふるさと学習、着付け教室 など	1,867人
放課後子ども教室	通年	宮野小学校、家庭教育支援チーム員ほか	ハンダグライダーづくり、紙コップ竹とんぼづくり、8の字かざぐるまづくり など	28人
北部管内協働教育研修会	11/25	小学校地域連携担当等教職員、生涯学習担当者	講演、実践事例発表など	9人
地域活動	12/13	瀬峰・高清水地区、一迫・花山地区	ふれあいクリスマス会、新春書初大会	70人
協働教育推進委員会	12/22 3/9	協働教育推進委員	協働教育事業計画協議	13人
合計				2,729人

評価

A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

令和3年度から実施した「くりはら未来塾」の円滑な実施を図る必要がある。また、地域と学校及び教育委員会をつなぐ推進体制(地域学校協働本部)の整備を図る必要がある。  くりはら未来塾(放課後学習会・夏休み学習会)への参加を呼びかけ、学習内容も含め更なる充実を図る。地域や学校と、協働本部の仕組みづくりを進める。

5 学識経験者の意見

新規に立ち上がった「くりはら未来塾」の展開で参加者数の増が今後期待される事業と考えられます。また、学校支援活動が全ての小中学校で実施できた点は素晴らしい点ですが、これをどのように継続させるのが今後の課題になると思われます。引き続き、関係各所との連携がより重要になると考えられました。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

図書館活動を通じて市民の生活に役立つような文化・教養の向上に努め、多くの市民の読書活動を推進する。そのため、図書等貸し出し環境の整備や各種事業やサービスの提供を行う。

2 具体的事業

施策を構成する事業

目標指標

14「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」（図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会）

市民一人あたりの図書貸出数

事業概要及び目標

現状値（令和2年度） 3.0冊
 目標値（令和3年度） 3.2冊
 実績値（令和3年度） 3.2冊
 達成率 100.0%

市立図書館と市内9カ所の公民館図書室等とのネットワークシステムによる図書の相互貸借をはじめ、移動図書館車の効率的な運行や乳幼児への絵本無償提供などの事業を展開し、市民の読書環境の充実を図る。

また、広報くりはらや市ウェブサイトによる情報発信の継続、さらにはSNSを有効活用して市立図書館及び公民館図書室の利用を促し、読書活動を推進する。

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果

市立図書館及び公民館図書室の運営にあたっては、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策としての臨時休業や施設内閲覧席の制限、イベント等の縮小などを実施しながら感染拡大防止に努めるとともに、感染拡大防止策の一環としての不要不急の外出自粛に対する対応として、図書資料及び視聴覚資料の貸出点数の制限緩和など、家庭での読書活動推進に取り組んだ。

また、スマートフォンやタブレットなどの普及を踏まえ、利用者個人の情報端末を活用した図書資料の予約サービスの実施など、多様化する利用者の利便性向上に向けた新たなサービスに取り組んだ。

更に、市立図書館や公民館図書室の利用者の満足度向上を目的とした「図書館・図書室の利用に関するアンケート」調査を実施し、回答のあった利用者からは、祝日開館や閉館時間延長などの意見もあるが、概ね現状のサービスで満足しているとの意見が多数であった。

年度	総貸出冊数	(総貸出冊数のうち公民館図書室貸出冊数)	総人口(年度末)	市民一人あたりの図書貸出数
平成28年度	212,922冊	58,154冊	69,717人	3.0冊
平成29年度	206,405冊	60,320冊	68,946人	3.0冊
平成30年度	211,644冊	62,789冊	67,829人	3.1冊
令和元年度	204,441冊	59,609冊	66,618人	3.1冊
令和2年度	197,707冊	51,510冊	65,419人	3.0冊
令和3年度	204,386冊	56,982冊	64,102人	3.2冊

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

情報化社会へと進展する中で懸念される読書離れに対し、読書活動推進拠点としての図書館や図書室の取組を実効性のあるものとする必要がある。



コロナ禍の制限のある中で実施している各種事業について、感染状況を見極めながら通常期の規模に戻していくことはもとより、読書活動推進拠点としての発展的な取組とすることを念頭に計画・実行していく。

5 学識経験者の意見

地震後の対応も大変であったことをSNS等で確認しております。今後も引き続き対策について検討を進めて下さい。コロナ禍で様々な対応されていることが見られました。利用者個人の情報端末を使用した予約サービスは、借りる側や図書館側にそれぞれメリットがあると考えられます。PISA調査などで日本における「読解力低下」が浮き彫りになっており、これらの改善にむけた「知の拠点」としての図書館の役割の重要性をアピールすることも今後期待されるところです。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進		担当課 社会教育課
1 目的				
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
15「青空大使派遣事業」			事業方針の策定 目標値（令和3年度） 100.0% 実績値（令和3年度） - %	
事業概要及び目標				
<p>市内在住の中学2年生をオーストラリアに派遣し、グレートバリアリーフなどの大自然に触れ、ホームステイや現地校との交流により異文化理解の重要性を知る機会とし、将来を担う国際的視野を持った人材を育成する。</p> <p>令和2年度に続き令和3年度も派遣事業を中止したことから、事業の在り方を検討し、次年度以降の方向性を決定する。</p>				
3 令和3年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、外国へ入国する場合には、新型コロナワクチン接種を完了する必要があったり、PCR検査の陰性証明書が必要な状況となっており、青空大使派遣事業を通常どおり実施できない状況が続いている。令和2年度に引き続き令和3年度、令和4年度の青空大使派遣事業の中止を決定している。令和5年度から事業実施ができるよう進めているが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから令和4年度も引き続き検討を行う必要がある。</p>				
評価				
<p>—</p> <p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>				
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針				
<p>新型コロナウイルスの影響により、依然として海外へ渡航することが難しい状況となっており、事業実施が困難困難となっている。</p>			➡	<p>海外への渡航が今後も難しい状況が続くようであれば、オンラインによる交流も検討していく。</p>
5 学識経験者の意見				
<p>派遣事業をコロナ禍の影響で残念ながら実施することができませんでした。しかしながら、大使として海外に派遣することだけが国際理解のための学習ではなく、示唆されているようにネットを介した様々な交流も可能ではないかと考えられます。今後、海外渡航ができるようになった際には、事前にオンライン交流などをしてから、現地で直接交流という反転授業的な、2段階での実施なども考えられるかと思われました。</p>				

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	地域に根ざした文化芸術の振興																																																
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進		担当課 社会教育課																																																
1 目的																																																				
市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。																																																				
2 具体的事業																																																				
施策を構成する事業		目標指標																																																		
16「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」		芸術鑑賞会等参加人数																																																		
事業概要及び目標		現状値（令和2年度） 1,395人 目標値（令和3年度） 2,500人 実績値（令和3年度） 6,417人 達成率 256.7%																																																		
優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。																																																				
3 令和3年度の取組と自己評価																																																				
取組と成果																																																				
優れた芸術に触れる機会と地域文化の創造に努めるため、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で各種文化事業を開催することができた。感染状況により中止となった事業もあったが、「みてけらいん美術展」や「宮城水彩展「栗原展」」ではコロナ前の令和元年度よりも多くの観客が来場するものもあった。																																																				
令和3年度 実施事業																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>参加人数</th> <th>令和2年度人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校芸術鑑賞会（巡回公演）</td> <td>6/7～17 （全13公演）</td> <td>3,381人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>第15回栗原市写真展</td> <td>2/26～3/6</td> <td>449人</td> <td>674人</td> </tr> <tr> <td>大山日出男セクステット ジャズコンサート2021 inくりはら</td> <td>12/19</td> <td>397人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>栗原みてけらいん美術展</td> <td>6/11～20</td> <td>552人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>第56回宮城水彩展「栗原展」</td> <td>7/2～11</td> <td>383人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>栗原市工芸展</td> <td>8/3～8</td> <td>268人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>グランドピアノ一般開放事業</td> <td>10/1～31</td> <td>22人</td> <td>72人</td> </tr> <tr> <td>栗原市美術展</td> <td>2/1～6</td> <td>551人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>ダンスフェスティバル2022</td> <td>1/23</td> <td>301人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>春の祭典～舞踊と民謡 流派の集い～ <隔年実施></td> <td>3/6</td> <td>113人</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>6,417人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	参加人数	令和2年度人数	小学校芸術鑑賞会（巡回公演）	6/7～17 （全13公演）	3,381人	中止	第15回栗原市写真展	2/26～3/6	449人	674人	大山日出男セクステット ジャズコンサート2021 inくりはら	12/19	397人	-	栗原みてけらいん美術展	6/11～20	552人	中止	第56回宮城水彩展「栗原展」	7/2～11	383人	中止	栗原市工芸展	8/3～8	268人	中止	グランドピアノ一般開放事業	10/1～31	22人	72人	栗原市美術展	2/1～6	551人	中止	ダンスフェスティバル2022	1/23	301人	中止	春の祭典～舞踊と民謡 流派の集い～ <隔年実施>	3/6	113人	-		計	6,417人	
事業名	開催日	参加人数	令和2年度人数																																																	
小学校芸術鑑賞会（巡回公演）	6/7～17 （全13公演）	3,381人	中止																																																	
第15回栗原市写真展	2/26～3/6	449人	674人																																																	
大山日出男セクステット ジャズコンサート2021 inくりはら	12/19	397人	-																																																	
栗原みてけらいん美術展	6/11～20	552人	中止																																																	
第56回宮城水彩展「栗原展」	7/2～11	383人	中止																																																	
栗原市工芸展	8/3～8	268人	中止																																																	
グランドピアノ一般開放事業	10/1～31	22人	72人																																																	
栗原市美術展	2/1～6	551人	中止																																																	
ダンスフェスティバル2022	1/23	301人	中止																																																	
春の祭典～舞踊と民謡 流派の集い～ <隔年実施>	3/6	113人	-																																																	
	計	6,417人																																																		
(中止した事業)																																																				
ジャズコロボくりはら（代替事業ジャズコンサート）、けやきステージ、河北美術展、栗原書道展、自主公演、ファミリーミュージカル、わかやなぎ音楽祭、市民参加型コンサート（R2：87人）、宮城県巡回小劇場（R2：294人 R3は実施無し）、青少年劇場小公演（R2：268人 R3は実施無し）																																																				
評価																																																				
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																			
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																																																				
昨年と同様に新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらの事業実施が必要である。文化会館等での事業については、入場者数を制限しての開催となっていた。		➡	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で、市民のニーズに応える事業の実施に努める。文化会館等の自主公演など、通常規模での事業実施について検討する。																																																	
5 学識経験者の意見																																																				
感染防止対策などを行って実施し、目標達成率を大幅に超えたことが確認できました。このような展覧会は、飛沫の発生も非常に小さいことから、積極的な開催が可能と考えられます。今後は、感染防止対策を取りながら、さらに拡大した形で事業が実施されることを期待いたします。																																																				

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		担当課 文化財保護課

1 目的

先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
17「文化財標柱等整備事業」	文化財標柱等更新数
事業概要及び目標	現状値（令和2年度） 13基 目標値（令和3年度） 7基 実績値（令和3年度） 5基 達成率 71.4%
指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に設置している文化財標柱等を計画的に更新する。また、埋蔵文化財包蔵地に設置することにより、無断開発を防止するための周知徹底を図る。	

3 令和3年度の取組と自己評価

取組と成果

文化財の保護啓発、周知のために市内に設置している指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の木製及び金属製の文化財標柱の中から経年劣化等により損傷が激しく、記載内容等が確認できない4基を選定し、委託業務で改修及び更新（撤去・新設）を行ない、併せてこれまで私有地に設置していたものを公有地に移動した。また、開発が進んでいる地区に1基を新規設置し、標柱と説明板が重複して設置されている2箇所について、判読不明な標柱及び説明板を撤去した。なお、直営で2基の改修を予定していたが実施することが出来なかった。

改修：栗駒地区1基、一迫地区1基
新規設置：築館地区1基

更新（撤去・新設）：花山地区2基
撤去：金成地区1基、志波姫地区1基

	標柱・説明板設置調査数	現状設置数	更新(新設)・改修等必要件数			改修等不要件数
			更新(新設)	改修等	計	
築館	81	81	47	11	58	23
若柳	79	79	22	6	28	51
栗駒	174	174	38	38	76	98
高清水	107	107	22	8	30	77
一迫	240	240	5	49	54	186
瀬峰	136	136	57	5	62	74
鶯沢	23	23	0	3	3	20
金成	106	105	19	14	33	72
志波姫	70	69	5	11	16	53
花山	104	104	17	24	41	63
総数	1,120	1,118	232	169	401	717

※「現状設置数」は令和3年度撤去数（金成地区1基、志波姫地区1基）を反映

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和4年度に向けた課題・今後の方針

埋蔵文化財包蔵地に設置する標柱について、劣化の度合いだけでなく、開発の状況に留意する必要がある。



経年劣化により文字が判読できないもので、開発が進んでいる場所や私有地にあるものを優先して公有地に建て替える。

5 学識経験者の意見

文化財は、貴重なものであっても思った以上に知られていないものが多いことが全国的に知られています。標柱などを整備することにより、人々にその価値を改めて気づかせる機会が生まれます。栗原市における貴重な財産を市民や来訪者に意識させるためにも、引き続き丁寧な更新作業が求められます。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		担当課 文化財保護課
1 目的				
<p>先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。</p>				
2 具体的事業				
施策を構成する事業		目標指標		
18「文化財普及啓発活動事業」		普及啓発活動回数		
事業概要及び目標		現状値 (令和2年度)	目標値 (令和3年度)	実績値 (令和3年度)
<p>市内に所在する文化財に関して、広報記事や文化財紹介パネルの作成・掲示、発掘調査成果についての展示等を行うことにより、広く文化財の価値を伝える。</p>		広報記事の掲載 12回	12回	12回
		文化財紹介パネルの作成・掲示 0回	2回	2回
		企画展の開催 1回	1回	1回
		達成率		100.0%
3 令和3年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>市内の文化財について広く伝えるため、『広報くりはら』において、文化財を紹介した記事を毎月掲載した。また、県指定無形文化財の「正藍染」を紹介したパネルを作成し、栗原市役所金成庁舎に掲示した。一迫埋蔵文化財センターにおいて、栗原市が所蔵する栗原にゆかりのある作者による絵画及び風土記（文書史料）の展示を行った。</p>				
実施事項	実施内容		備考	
広報くりはらへの記事掲載	大沼かねよ画伯絵画ほか計12件の文化財及び伝統習俗等に関する紹介		「市内の文化財散策」として掲載（毎月）	
文化財紹介パネルの作成・掲示	①県指定無形文化財「正藍染」の紹介と作品掲示 ②正藍染技術保持者「あをによし大賞」受賞の紹介パネル掲示		栗原市役所金成庁舎に掲示	
企画展 くりはらの絵画と風土記	栗原市所蔵の絵画及び風土記（文書史料）の展示		場所：一迫埋蔵文化財センター 会期：令和4年3月23日～4月3日 開催日数：11日間	
評価				
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>			
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針				
企画展示の事前周知が不十分だったため、見学者が少数であった。		➡	企画展示を児童・生徒の夏休み期間に実施して、見学者の増加を目指す。	
5 学識経験者の意見				
<p>前述した標柱で文化財の存在を知らせることができたら、さらにその文化財の意味が知りたくなってくるといいます。その機会を逸することがないようにするため、啓発活動がより重要になってきます。様々な形で実施することが出来ると思いますが、引き続き試行錯誤しながら、取り組む必要性を感じました。</p>				

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進																												
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課																												
1 目的																																
<p>スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」(注1)をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。(注1) 楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。</p>																																
2 具体的事業																																
施策を構成する事業		目標指標																														
19「栗原市小学校陸上競技大会ほか各種大会」 (高校陸上大会、東北中学校卓球大会、体力・運動能力調査ほか)		各種大会(市主催)の参加人数																														
事業概要及び目標		現状値(令和2年度) 606人 目標値(令和3年度) 2,200人 実績値(令和3年度) 1,805人 達成率 82.0%																														
<p>市民の健康増進及び体力・競技力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携しスポーツ大会等を開催する。</p> <p>また、市民と地域、各種団体、行政が互いに連携・協力することで、スポーツを支える楽しさの推進を進める。</p>																																
3 令和3年度の取組と自己評価																																
取組と成果																																
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、一部の事業については中止としたものの、参加人数の制限や時間の短縮など、感染防止対策をとりながらできる限り事業を開催した。</p> <p>参加者の理解や協力をいただくことができ、開催事業を起因とするコロナ感染もなく、事業を開催することができた。</p>																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>R3参加人数</th> <th>R2参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第17回栗原市小学校陸上競技大会</td> <td>6月13日</td> <td>222人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>第29回くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会</td> <td>7月17日～18日</td> <td>986人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>第8回山崎武司杯東海東北中学野球交流大会</td> <td>8月3日～4日</td> <td>162人</td> <td>87人</td> </tr> <tr> <td>第13回山崎武司杯少年野球選抜大会</td> <td>11月3日</td> <td>204人</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>ホッケー競技普及事業</td> <td>6月～12月</td> <td>231人</td> <td>360人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>1,805人</td> <td>606人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	開催日	R3参加人数	R2参加人数	第17回栗原市小学校陸上競技大会	6月13日	222人	中止	第29回くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7月17日～18日	986人	中止	第8回山崎武司杯東海東北中学野球交流大会	8月3日～4日	162人	87人	第13回山崎武司杯少年野球選抜大会	11月3日	204人	159人	ホッケー競技普及事業	6月～12月	231人	360人		合計	1,805人	606人
事業名	開催日	R3参加人数	R2参加人数																													
第17回栗原市小学校陸上競技大会	6月13日	222人	中止																													
第29回くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	7月17日～18日	986人	中止																													
第8回山崎武司杯東海東北中学野球交流大会	8月3日～4日	162人	87人																													
第13回山崎武司杯少年野球選抜大会	11月3日	204人	159人																													
ホッケー競技普及事業	6月～12月	231人	360人																													
	合計	1,805人	606人																													
<p>〈中止した事業〉</p> <p>栗原市長旗争奪第20回東北中学校卓球大会、ウルフドックス名古屋バレーボール教室、体力・運動能力調査宮城ヘルシー2021ふるさとスポーツ祭栗原地区大会、第7回栗原ハーフマラソン大会</p>																																
評 価																																
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)																															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)																															
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)																															
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)																															
4 令和4年度に向けた課題・今後の方針																																
<p>新型コロナウイルス感染症の予防対策に努めながら、令和3年度に中止とした事業についても、実施に向けた検討が必要である。</p>		➡	<p>必要に応じて競技参加者数や応援来場者の制限を行うなど、感染予防対策に努めながら、競技協会等と協力しスポーツ活動の推進を図りたい。</p>																													
5 学識経験者の意見																																
<p>コロナ禍において、集まって運動することが難しかったと思われませんが、適切な対応で各種行事を実施できたことは、参加された方にとって、改めて運動の素晴らしさが認識できた機会になったと思われれます。今後は参加者もより多くなって来ると思われれますが、感染対策をしながら、更なるスポーツ活動の推進が期待されました。</p>																																

3 学識経験者の意見

○ 宮城教育大学大学院教育学研究科 教授 黒川 修行 氏

栗原市における様々な取り組み、また、コロナ禍における工夫などについて拝読し、皆様方の様々な思いが伝わってきました。

前回に引き続き、今回も点検及び評価の結果報告書を確認している中で感じたのは、新型コロナウイルス感染症による影響を強く受けており、昨年度に引き続き、感染の予防や拡大を予防する観点から、これまで通りの事業展開が大変難しかったようです。

一方で、少しずつ再開できた事業も見られるようになってきたことは朗報であり、これまでのような適切な対応をすれば、感染を発生させることなく、事業を運営できることも分かってきたものと思われ、参加者からの反応も良かったものも多数あったようです。是非、このような運営方法を事業担当者のみならず、多くの職員で情報共有するのが良いだろうと思われます。

学校でのGIGAスクール構想も本格的に運営されるようになり、これらに関連する取り組みが増えてきたようですが、ICT技術は日進月歩であり、どんどん変化するため、そのような背景下で、栗原市がどのように取り組んでいくのか、今後期待されるところです。

目標の達成率が数字として示されておりますが、教育に関わる分野は、どうしても数字では見えてこない面もあるため、数字で示すことも大切ですが、質的な評価が必要かも知れません。今後、評価指標についても再考することで、より明確な評価ができるようになり、改善点なども明らかにすることが出来るのではないかと考えられました。

今後も恐らく、新型コロナウイルス感染症下における様々な事業が運営されることになると思われますが、事業自体が栗原市にとって、どのような意義・意味があるのか、再考しながら、検討するとともに、栗原市の様々なセクションが協働しながら運営される必要性を感じました。

4 栗原市教育委員会の今後の方向性

宮城教育大学の先生からいただいた御意見を参考に、今後、次のとおり実施してまいります。

(1) 学府くりはらの学校教育（事業 NO. 1～9）

- ・ 学力の向上につきましては、整備された I C T機器を効果的に活用するため、I C T活用モデル校を中心に一人一台端末の環境を有効に活用した授業改善に取り組むとともに、引き続き、教育研究センターを活用した教職員の研修等に取り組んでまいります。
- ・ いじめ、不登校防止施策の推進につきましては、「命を大切にす教育」を様々な教育活動において意図的、計画的に指導していくことを各学校の教育計画へ位置付けるとともに、昨年度設置した「栗原市学校教育支援室」を活用し、不登校の未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでまいります。
- ・ 健康と体力の向上につきましては、引き続き感染症対策を徹底し、全国体力・運動能力テスト結果の分析や体力向上に実績のある学校の取り組みを紹介するなどの情報共有を図り、更なる向上を目指します。

(2) 学府くりはらの社会教育（事業 NO. 10～19）

- ・ 生涯学習の推進につきましては、昨年度と同様に感染防止対策を徹底し、各種講座等の事業を実施するとともに、オンラインによる講座も開催することとし、多くの方々が参加できる環境づくりを行います。また、登録人数が減少しているジュニア・リーダーを育成するため、青少年団体と協力した各種事業の実施や新規加入につながる啓発活動に取り組めます。
- ・ 協働教育の推進では、「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりに必要な、地域、学校、家庭及び関係機関との連携強化のための推進体制の整備や仕組みづくりを進めます。
- ・ 文化芸術の振興につきましては、市民のニーズを把握し、参加者に満足していただける魅力的な事業を企画するとともに、多くの市民に参加いただけるよう広報等を改善するなど事業の活性化を行います。
- ・ 文化財の保存と活用の推進につきましては、貴重な文化財を市民や来訪者に意識させるため、文化財標柱等の損傷の程度や更新の効果、優先度を考慮しながら、継続した整備により周知に努めます。また、市内の文化財について広く伝えるため、小中学生の長期休暇に合わせて企画展を開催するなど、文化財の普及啓発活動事業についても継続的に取り組んでまいります。
- ・ スポーツの推進につきましては、市民の健康増進、世代間交流、地域の活性化のため、競技協会等と協力し、市民が行うスポーツ活動を引き続き支援してまいります。また、昨年度中止となった栗原ハーフマラソン大会は、令和4年度の実施に向けて準備を進めております。